

令和5年度事業（業務手順書等の見直し）について

第15回・第16回の高齢者医薬品適正使用検討会での 議論を踏まえた論点整理と今後の対応方針

令和5年度

- ポリファーマシー対策状況のアンケート調査（好事例の抽出等）
 - 医療機関や地域の取組みを調査
- 令和3、4年度事業の成果を踏まえた指針及び「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」（業務手順書）の見直しを実施
 - 外部有識者により構成されるWGを運営し、改訂案の作成
 - 高齢者医薬品適正使用検討会において、改訂案の実効性について検討
 - 改訂した指針及び業務手順書の周知

《業務手順書等の見直しのポイント（現時点）》

- ・ 大病院だけでなく中小病院、診療所、薬局（地域）でも活用できるように見直し
- ・ 多職種でのポリファーマシー対策チームの設置が難しい場合の取組みについて明記
- ・ 連携によるポリファーマシー対策を推進するための様式とその活用方法について検討
- ・ 電子処方せんやICTを活用した取組みを追記
- ・ 指針の別添の薬物リスト等について更新
- ・ 指針及び業務手順書の周知方法の検討

第15回・第16回の高齢者医薬品適正使用検討会での 議論を踏まえた論点整理と今後の対応方針

現状

- ・令和2年度に、指針を活用し、ポリファーマシー対策の取組みを進めるツールとして、業務手順書を作成
- ・令和3年度は3病院で令和4年度は4地域で、業務手順書等を活用し、実用性と課題を確認

《業務手順書等の活用事例を踏まえての議論》

	第15回 (R4.4.13)	第16回 (R4.11.30)
業務手順書関係	<ul style="list-style-type: none"> ・大病院ほどの人員や体制が整っていない病院におけるポリファーマシー対策の手法を業務手順書内で提示できれば、地域にポリファーマシー対策が広がるのではないか。 ・多職種のポリファーマシー対策チームを設置できない場合の取組みもあればよいのでは。 ・地域で手順書を使う場合の注意点や使い方等を示した追補版もしくは地域版業務手順書を作成するとよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務手順書の様式のひとつでもある「服薬情報提供書」のあり方について、医療従事者に再認識されるよう後押しをしていく必要があるのではないか ・お薬手帳を活用している地域の発表を受けて)患者や複数の医師・薬局の目にも触れるお薬手帳をうまく活用できたらよいのではないか
啓発活動・広報	<ul style="list-style-type: none"> ・医師への認知度を上げるため、医師会等の研修会にポリファーマシー対策を盛り込むよう呼びかけることはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・指針や業務手順書の普及がまだ不十分であることが判明したので、今以上に医療関係者（ポリファーマシーに関わる事業に携わる者）への啓発活動に注力してはどうか
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・医師の理解が重要であることから、医師に対する説明資料を作成してはどうか ・病院では、取組みを進めるためには（ポリファーマシー対策チームの設置を含めて）院長・副院長クラスの理解が必要 ・経済的な誘導として、診療報酬で様々な項目があれば進むのではないか ・ポリファーマシー対策によるアウトカムを結果によらず記載してはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子処方箋の導入を踏まえてポリファーマシーをどう捉えていくか議論が必要ではないか ・ポリファーマシーに関する研究活動が現在少ないので、積極的に研究活動を進めるための取組みが必要ではないか

今後のスケジュール

	2023年										2024年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1 ポリファーマシー対策状況のアンケート調査、好事例の検索・抽出等)		調査内容検討		アンケート調査・集計			調査・分析結果報告						
2 指針や業務手順書の見直し等の検討（WGでの検討）	3回程度WG開催										指針や業務手順書の見直し等の検討		改訂案の作成
3 検討会の予定	☆ R5年度 第1回									☆ R5年度 第2回		☆ R5年度 第3回 (予備)	